

▼コラム

土木と市民社会をつなぐ事業研究会(CSV 研究会) ステージⅠ 終了報告

シビルNPO 連携プラットフォーム 代表理事
山本 卓朗



1. はじめに

本研究会は社会的課題の解決を図る事業手法（特にソーシャルビジネス（SB））および企業の共通価値の創造（CSV 事業※注1）を学習すると共に、建設分野における社会的課題の解決を図る事業を広く調査・研究し、望ましい活動・事業とは何かを明らかにすることを目的として、2019年2月にNPO法人シビルNPO連携プラットフォーム（CNCP）が主催し、ゼネコン7社の参加の基でキックオフ致しました。

大前提として本研究会が狙っているのは、建設業界全体の本質的価値の獲得を目指すもので、研究会の位置づけは下記の通りです。

- ①市民社会への公益を第一の目標とし、市民社会からの好感度を獲得する。
- ②市民社会への主導的な役割を担い、従来型の「請負」あるいは「委託業務」とは一線を画す。
- ③既存事業の延長とは異なる角度から捉え、未着手の事業開発を目指す。
- ④無償のCSR事業ではなく、本業としてのCSV事業として位置付ける。
- ⑤以上の努力によって、建設界全体の信頼度を高め、利益向上につなげる。

昨今は、オープン・イノベーションという議論がありますが、この研究会では、各社が自社で開発中の技術等について立ち入りません。また本会で得られた発想を各社でどのようにアレンジして活用されることも自由としております。

以上のようにして、研究会の参加者は所属組織にとらわれることなく一段高い意識で議論に参加することで、従来の発想の及ばないレベルを模索します。研究会参加者は社会的課題に関連する多くの情報の入手や解決に関わる思考トレーニングの貴重な場としても役立つことを目指して活動をして参りました。

※注1：共通価値の創造（CSV）とは、社会的課題を工夫のある事業で解決を図ると共に、合わせて企業価値の向上を図る事業を称します。

2. 社会的課題の抽出を目指したブレインストーミング

発足当初の第1回～第3回研究会では、主としてソーシャルビジネス（SB）や企業のCSV事業やCNCPが過去に実施してきたアワード事業の学習をして参りました。

そして、第4回研究会では「土木の視点での取り組むべき社会的課題」をテーマに、ワールドカフェ方式によるブレインストーミングを行いました。当日は90分程度の限られた時間にも関わらず、下記の一覧表に示す86枚ものポストイットに様々な切り口で社会的課題が出されました。

大分類	キーワード	要約	指摘数
建設界の課題	業界の人気度	建設界の魅力度が低く、若者や高度人材の建設離れの課題	8
	労働者不足	人口減少や高齢化とも連動する、労働者不足への課題	6
	労働環境	働き方改革が言われる中で、残業、長時間労働などの課題	6
	業界構造	業者数が多く、会社間協力、下請け等への構造的な課題	4
	建設界の体質	企業や個人の独創性に欠け、業界全体の同質性、業界内で完結	4
	事業の執行体制	官主導の執行体制のもとで、市民社会との接点がない	8
社会的な課題	インフラメンテ	注目されるインフラメンテへの業界対応、事業の仕組みへの課題	7
	災害対応への貢献	災害時には社会から注目されるが、復旧工事で終わる	4
	新事業への貢献	地球環境、エネルギー問題、廃棄物への対応の課題	8
	中央と地方の格差問題	事業の過度な東京一極集中で地方の更なる空洞化を生じている	5
	土木という物語	国や地域の将来ビジョン等の「物語」が語られていない	7
建設界と社会の相互の課題	土木への誤解・不信	建設界には誤解による、悪いイメージが付きまとっている	5
	市民との接点	事業への市民社会からのアプローチという視点も実行も欠ける	7
	広報発信力	近接企業から市民社会への広報や宣伝をする機会も力量もない	7
計			86

本研究会は運動論として、ゼネコンが取り組むべき社会的課題解決を CSV の視点で探るものであり、第 5 回研究会において今後はプレーストリーミングの結果を受けて、「インフラメンテ」、「災害対応への貢献」、「新事業への貢献」、「中央と地方の格差対応」、「土木という物語」を社会的課題として一つずつ取り上げて、これらの課題を CSV の視点で探っていく方向が明確に示されました。

そして、第 6 回研究会以降は、上表の 5 つ社会的な課題に対して、課題解決を CSV の視点で探る検討を行いました。

なお、CSV の視点とは以下の①～④の切り口です。討議の「主な論点」は単なる従来の建設界の延長線（常識解）だけでは終わらせないよう、「研究会としての新機軸」を打ち出せるよう留意しました。

① CSV 活動領域

社会的課題の問題点を正しく捉え、活動および領域を考えてみる。(3～5 年程度の初期段階のスタートアッププランで良く、メニュー、対象エリア、規模など)

② 社会的価値提案モデル

それによって得られる社会貢献度および市民社会への広報・宣伝効果を考える。

③ 収益モデル

まずは初期段階の事業規模、投資額、など簡単な目論見で考え、既存の活動に対する、新機軸、競争力や収益性などの優位性を考える。

④ 取り組みの連携・協働

3～5 年程度の手順をごく簡単に考えてみる。例えば同業・異業種・学会・NPO 等の連携体制や事業化へのハードルとその解決方法などのアプローチ方法を考える。

3. 各社会的課題解決に向けた事業化案

本研究会は、ステージ I として、建設界では馴染の薄い共通価値の創造 (CSV) の視点で 5 つの社会的課題について、研究会参加者が一企業では解決が困難な社会的課題に対しての解決方策について検討して来ました。常にテーマとして取り上げた社会的課題解決に向けた参加メンバー提案書を義務付け、

ステージⅠでは総計50を超える数の提案書が提出されました。その提案書进行分析・評価した結果、以下に示すの事業化モデルが取りまとめられました。

(1)「インフラメンテ」の事業化5案

- 事業モデル④ ; インフラ診断のプラットフォーム事業
- 事業モデル⑤ ; インフラメンテの包括民営化事業
- 事業モデル⑥ ; インフラメンテの協働推進事業
- 事業モデル⑦ ; 公共施設・空き家等の利活用活性化事業
- 事業モデル⑧ ; 流域圏のグリーンインフラ・メンテ事業

(2)「災害対応への貢献」の事業化4案

- 事業モデル④ ; 地域防災の支援事業
- 事業モデル⑤ ; 大規模震災へのDCM支援事業
- 事業モデル⑥ ; 避難誘導へのCSV商品開発事業
- 事業モデル⑦ ; 世界の大规模森林火災への防災事業

(3)「新規事業への貢献」の事業化2案

- 事業モデル④ ; 自立分散型のエネルギー支援事業
- 事業モデル⑤ ; 廃棄物の高度利活用事業

(4)「中央と地方の格差問題」の事業化3案

- 事業モデル④ ; 過疎逆型のコミュニティ支援事業
- 事業モデル⑤ ; 海生型モデル都市圏の創生支援事業
- 事業モデル⑥ ; 東京圏の未来再生インフラ支援事業

(5)「土木という物語」の事業化3案

- 事業モデル④ ; 大都市と適度な地域づくりの連携支援事業
- 事業モデル⑤ ; 土木の本質論&総合性に基づく支援事業
- 事業モデル⑥ ; 工事現場への情報発信拠点の開発事業

4. おわりに

本研究会では、常に、社会的課題を解決するための正解は一つではなく複数あるとの立ち位置に立っています。したがって、ステージⅠ報告書に対しての「異論・対論」は大いに歓迎すべきと考えています。それは、私たちの求めるCSVとは、決して「余力で奉仕する社会貢献」とは全く異なるものであり、CSVは「社会貢献そのものを本業に据える」ことです。すなわち、本研究会で取り上げた全ての社会的課題は、今後の「建設界そのもののあり方」を問うているものであり、決して一企業レベルでは到底解決などすることが出来ない高いハードルを越えることに挑戦するものであります。

本報告を以て、本研究会のステージⅠは終了します。これから私たちはステージⅡとして更なる海図なき航海に出ます。いつからでもどこからでも結構です。この取り組みにご賛同いただける方々の研究会への参加を歓迎します。

なお、ステージⅠの170ページに亘る報告書は、CNCP会員には無償にて印刷物で配布致します。その他、本報告書をご希望の方は、CNCP事務局(cncp.office@gmail.com)にご連絡いただければ、実費にてお分け致します。

